

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381124

研究課題名(和文) 留学生受入が国内学生にもたらす教育的インパクトに関する研究：マレーシアを事例に

研究課題名(英文) A Study of Educational Impacts of International Students on Domestic Students: A Case of Malaysia

研究代表者

秋庭 裕子 (Akiba, Hiroko)

一橋大学・大学院商学研究科・特任准教授

研究者番号：10313826

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジア域内における留学生の積極的な誘致と受入れをしている国であるマレーシアにおいて、留学生の量的拡大とその国籍の多様化が、国内の学生の教育に対してどのような効果をもたらしているのか、その現状と今後の課題を実証的に検証した。研究成果としては、マレーシアの高等教育政策、留学生受入・派遣政策、国内学生と留学生の共修授業に関する現状、国内学生と留学生が授業内で交流できる意図的仕掛け作り、について明らかにし、検証した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to empirically analyze the current trends and challenges of having more international students in the higher education institutions' classrooms in Malaysia, and its educational impacts on domestic students. As major outcomes, this research finds out that (1) the recent trends of policies on higher education with a specific focus on international education in Malaysia, (2) challenges of enhancing interactions between domestic and international students in the classrooms, and (3) the importance of intentional interventions by teaching instructors to facilitate such interactions.

研究分野：比較教育学

キーワード：高等教育 国際化 マレーシア 協働学習 留学生 教育成果 国際共修

## 1. 研究開始当初の背景

2020年のASEAN統合という動きに向けて、東南アジア域内での学生交流が活発化しているだけでなく、高等教育の質保証の整備や海外のトランスナショナル教育プログラムの導入により、東南アジア地域外からの留学生の受入れも戦略的に行っている国もある。本研究の対象となるマレーシアも例外ではなく、英語を公用語としていないにもかかわらず、英語による授業や学位プログラムを導入して、留学生受入の数値目標を設定し、海外での留学フェアを独自に開催するなど、留学生の受入れに熱心に取り組んでいる。近年、マレーシアでは、中東諸国、アフリカからの留学生が増えている。

このような国際化の動きを受けて、近年の高等教育の国際化に関する研究では、留学生の国際移動の地域化に焦点を当てたりジョナライゼーション、質保証制度の整備、高等教育国際化政策の動向、カリキュラムの国際化、留学生の教育成果や異文化適応に関わる研究が、国内外で数多く見受けられる。しかしながら、クラス内に留学生がいることで、国内学生に、国際的な視野や異文化理解を深める機会を与えていると指摘されていても、実際、国内学生の教育にどのような影響を与えているのかについては、学術的研究は数少ない。特に、アジア域内の国々のなかには、留学生受入れへの積極的な動きが過去20年以内で政策的に推進されてきていることもあり、国内学生に対する留学生の教育的インパクトという分野は非常に重要なテーマでありながら、欧米ほどには研究がなされていない。日本においても、留学生と国内学生が共に学ぶ

授業を「国際共修授業」と呼ぶようになり、注目されてはいるが、教授法、教育評価などはまだ発展段階である。

## 2. 研究の目的

本研究では、マレーシアにおける高等教育の国際化政策について、近年の質的・量的データや関連する先行研究をまとめたいと、留学生の量的拡大とその国籍の多様化が、国内の学生の教育に対してどのような効果をもたらしているのか、現地の大学を実地調査し、留学生と国内学生の教育効果について、検証することとした。具体的には、以下の事項である。

- (1) マレーシアにおける高等教育の国際化政策の動向をまとめ、そのなかでも、留学生受入が国内学生の学びにもたらすインパクトや利点、課題について言及されているのか、検証する。
- (2) 留学生が国内学生に与える教育インパクトに関する先行研究から、その動向と課題を明らかにする。
- (3) マレーシアにおいて、異文化を背景にもつ留学生と国内学生の協働学習と国内学生への教育的インパクトについて、その現状と課題を明らかにする。
- (4) 留学生との協働学習によって国内学生の学びが促進されるモデルについて考察する。

以上4点の目的を踏まえて、資料収集や現地訪問調査を実施すると同時に、マレーシアの大学教員と討議しながら、マレーシアを事例として、留学生が国内学生の学びを促進するモデルについて考察していく。

## 3. 研究の方法

本研究は3年間にわたり実施した。平成26年度と平成27年度の最初の2年間において、先行研究をまとめつつ、マレーシアの大学を訪問し、現地の大学教員の協力を得て、聞き取り調査を数回にわたって実施した。平成28年度(最終年度)においては、過去2年間に実施した現地調査の分析結果と先行研究から、海外の専門家の協力も得ながら、留学生との協働学習によって、国内学生の学習が促進するモデルについて考察し、現地で学生向け、教職員向けのワークショップを開催し、参加者からのフィードバックを得て、今後の研究について、現地協力者と検討した。

#### 4. 研究成果

(1)平成26年度には、マレーシアにおける高等教育ならびに留学生受入に関わる政策的動向とマレーシアの国際化に関する先行研究をまとめ、マレーシアの大学関係者にインタビューを行った。その結果、マレーシアの留学生受入れは、数的拡大から質的拡充に転換しており、大学院生やポスドクの留学生獲得によって、研究と教育の質的向上を図っていること、また、国立のなかでも研究大学と言われる大学では大学院生レベル、私学では学部生レベルといったように、留学生の受入れにも違いがあることが分かった。これらの文献研究や聞き取り調査をもとに、研究成果を学会等で発表した。

(2)平成27年度は、マレーシアの国立・私立大学の教員に聞き取りによる現地調査を実施した。その結果、留学生の国内学生への教育的インパクト、協働学習への関心は

高いものの、マレーシアでこの分野での研究が進んでいないことも分かった。

(3)最終年度は、過去2年間で実施した調査データ、文献研究から得た成果を基に、現地の研究協力者とともに、マレーシアにおいて、留学生と国内学生、そして、教職員を対象に、協働学習と異文化間コミュニケーションに関するワークショップを Tun Hussein Onn University of Malaysia にて開催した。現地の研究協力者も、同様のテーマでマレーシア政府の研究費を獲得したため、今後も連携して研究を継続する予定である。

また、留学経験のインパクトに関わる他の科研と連携しながら、留学経験のキャリアへのインパクトに関する研究成果をまとめて発表した。

#### 5. 主な発表論文等

[ 雑誌論文 ] (計3件)

(1) 新見有紀子・秋庭裕子(2016)「大学・大学院留学経験がもたらす金銭的・非金銭的便益：留学未経験者との比較分析に基づく一考察」『国際教育』(査読有) 第22号, 日本国際教育学会, pp.83-104

(2) 新見有紀子、太田浩、渡部由紀、秋庭裕子(2016)「グローバル人材育成と中・長期的インパクトに関する研究—留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査結果より—」『アジア文化研究』(査読有) 第23号, pp.3-26

(3) 秋庭裕子(2015)「マレーシアにおける高等教育の国際化政策に関する一考察 - 優秀な留学生獲得による域内ハブを目指して - 」『留学生教育』(査読有) 第20号, pp1-8.

[学会発表](計5件)

- (1) 新見有紀子、渡部由紀、秋庭裕子「グローバル人材育成と留学の中・長期的インパクトに関する研究—留学経験者と留学未経験者に対するオンライン調査より—」第25回国際アジア文化学会年次大会、2016年6月25日、和洋女子大学(千葉県・市川市)
- (2) 秋庭裕子 'Exploring Long-term Impact of Japanese Study Abroad Experience: Undergraduate and Graduate Education', 60th Annual Conference of the Comparative and International Education Society (国際・比較教育学会), 2016年3月7日、バンクーバー(カナダ)
- (3) 秋庭裕子、新見有紀子、芦沢真五、横田雅弘「海外留学の長期的なインパクト調査: 留学後のキャリアと人生に対する満足度に焦点を当てて」第20回留学生教育学会年次大会、2015年8月29日、日本電子専門学校(東京都)
- (4) 秋庭裕子、堀田泰司、潘建秀、三好登. 'A comparative study of Asian higher education systems for the future alignment process and more mobility: a case of China, Macao, Mongolia, and Japan', 59th Annual Conference of the Comparative and International Education Society (国際・比較教育学会)、2015年3月9日、ワシントンDC(アメリカ)
- (5) 秋庭裕子 「マレーシアにおける高等教育の国際化政策に関する現状と課題-研究と教育の質的向上を目指して-」第50回日本比較教育学会、2014年7月12日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

秋庭 裕子 (AKIBA, Hiroko)  
一橋大学・大学院商学研究科・  
特任准教授  
研究者番号: 10313826

### (2) 研究協力者

Nur Sofurah Hj Mohd Faiz  
Tun Hussein Onn University of  
Malaysia  
(マレーシア)・上級講師

Irene Tan  
Berjaya University College of  
Hospitality  
(マレーシア)・大学教育センター長